


3 子どものケア

対象	乳児・幼児
反応	ちょっとしたことで泣く・泣く元気もない／音や振動に敏感に反応する／寝付けない／特定の物や場所を極端に怖がる／親から離れない／指しゃぶり／おもらし／夜泣き／災害ごっこ等／
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと一緒にいる時間を多くとる ○生活リズムをつくる ○スキンシップによる関わり ○一時的な行動であることが多いので冷静に対応する ○叱ったり制止するのではなく見守る ○周囲の大人の安定を図る 
対象	小学生
反応	赤ちゃん返り／まわりつき／一人ではいられない／落ち着かない／ひきこもり／粗暴な行動／寝付けない／チック／下痢／便秘／災害ごっこ等／逆におとなしくなる／
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと一緒にいる時間を多くとる ○生活リズムを取り戻す ○子どもが安心感を持てるように心がけ、愛情を言葉や態度で示す。 ○子どもの活動の場を確保し自発的な遊びを促す ○日記・描画・遊び等での表現も大切に ○災害ごっこは災害を受け入れていく過程と考えて見守る ○子どもにできる範囲の手伝いをさせて達成感を得させる ○保育所・幼稚園と連携して支援する
対象	中学生 高校生
反応	大人と同様の反応。但し、がまんしすぎるなど、気持ちを率直に伝えられないこともある。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ひとりの大人として本人の意思を尊重した対応をする（支援を押しつけない） ○必要に応じて学校関係者や児童相談所につなげる

POINT

リスクの高い子ども

- 家族や友人を亡くした
- 保護者機能を損傷した
(親との死別、別居、親が行方不明、重傷を負ったなど)

このような子どもは、児童相談所や教育機関との連携を十分に図り、保護者機能を補完しながら支援する必要があります。

4 妊産婦・高齢者のケア

対象	妊産婦
反応	環境や気温の変化による体調不良 / 胎児への影響の不安 / マタニティブルーズや産後うつ病の出現 /
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○妊産婦に安心感を与えるような環境の整備 (安全の確保、身体負担軽減、授乳や育児の場の確保など) (「母親だから、しっかりするように」等の叱咤激励は禁忌) ○助産師等との個別訪問 ○妊産婦が集える場所の確保と育児情報の提供
対象	高齢者
反応	急激な環境変化への適応困難 / 将来への絶望感 / 取り残され感 / 心身両面への影響 / ※高齢者への支援は介護保険サービスとの連携が大切です
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○「まず身体」→身体的問題が隠れていないか気を配る ○「安心感」→視線の高さを合わせて相手のペースで話を進める ○「環境」→災害前後の環境を比較し変化を最小限に抑える ○「よりそい」→孤独化の防止と不安への対応 ○「生きがい」→生活に張り合いが持てるような働きかけ ○「連携」→関係機関と連携した QOL・ADL 維持の働きかけ

POINT

被災高齢者

高齢者は、加齢に伴う心身の諸症状があるうえに新しい環境になじみにくい側面があります。それに加えて、被災による喪失体験から将来に対する絶望感なども重なります。旅館等への2次避難や仮設住宅への入居では単身世帯化も起こりやすく、孤立化に対するサポートが特に必要です。

